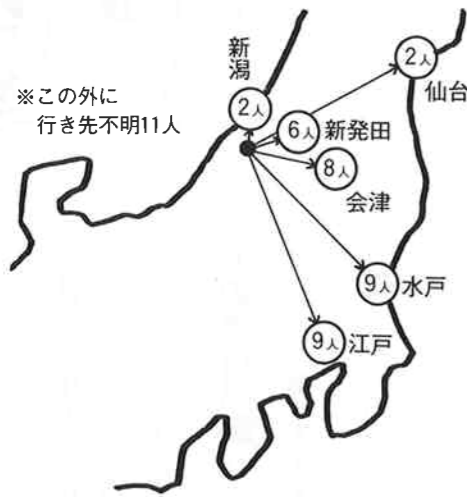


天保7年(1836)~天保14年(1843)の
大久保新田(現豊栄市大久保)からの
出稼ぎ先



出稼ぎした人の年齢

世代	人数
50代	2人
40代	3人
30代	7人
20代	8人
10代	2人
不明	25人

市史調査員 伊藤 充

江戸時代の出稼ぎ

江戸時代後期の農民は、大きく三つに分けられる。地主・自作農・小作農がそれである。しかし、小作農にもなれない家や、小作だけでは生活を支えていけない家が存在したのも事実である。彼らは、



(18)

現金収入を得るため、自分の村を離れて、出稼ぎに行かねばならなかった。
しかし、新発田藩は他国への出稼ぎを全面的に禁止していたので、農民たちは、法の網の目をくぐって、出稼ぎをしていた。その方法は、①出稼ぎ先へ一家そろって引っ越しをする、②出稼ぎ先と縁組する二つの方法がとられた。形が引越し・縁組であっても、実際のところは、出稼ぎであった。引越しや縁組の形がとれない者は、欠落して出稼ぎに行かなければならなかった。
図は、天保七年(一八三六)~天保十四年(一八四三)の大久保

新田(現大久保)に住む農民の出稼ぎ先を表している。越後国内では、港町新潟へ二人、城下町新発田へ六人、国外では仙台地方へ二人、会津地方へ八人、水戸へ九人、江戸へ九人となっている。
出稼ぎをしている人の年齢を見てわかるように、ほとんどが働きざかりである。
大久保新田の農民たち、それも小作にもなれない人、あるいは、小作だけでは生活を支えられない人々は、ある人は、一年以上、またある人は、数か月間家族をはなれて、出稼ぎをしなければならなかった。
彼らにとって、国境はどのよう

市史調査員 伊藤 充

編集室

六月五日は一月遅れの端午の節句。笹だんごをつくって二十年余りという竹石ミヨノさん(長戸呂)今年も宵節句の六月四日、「親類にあげる分まで」孫の陽子ちゃんと一緒につくりました。

表紙のことば

▽ テレビ、新聞、ラジオ等の中でも、ローカル版のニュース、記事は、視聴者にとって関心があるものです。
それよりも、さらに狭い地域の話題やお知らせを届けているのが、ミニコミともいわれる有線放送です。人の和・地域の輪を広げる意味で、今後も発展継続していった欲しいものです。

▽ 小・中学生の非行防止と健全育成を目的に「あいさつ運動」が始まります。

家庭の中でも、親子ともども話し合って、起床や就寝、登校や帰宅の際のあいさつなどを、「生活のめあて」にしてはいかがですか。



汗にさわやかな額

春のファミリーウォークが、5月20日行われ、約70人の市民が参加しました。この日、9時に中央公民館に集合した参加者は、福島潟を見ながら市島邸(豊浦町)を折り返す13.6キロメートルのコースに心地よい汗をかきました。



続いた友情30年

木崎中学校と新潟鯉学校の交歓会が5月24日、木崎中学校で行われました。今年30年目の交歓会、野球、バレーボール、卓球の交歓試合、フォークダンスなどで友情の輪を広げました。



華やかに舞う

6月3日、中央公民館で全新潟ダンス競技大会が行われました。プロ、アマ約40組が出場したこの大会、会場は華やかな雰囲気につつまれていました。